

江戸の坂道散策



御殿坂(文京区)

御殿坂アクセス▼都営三田線・白山駅下車。白山下の信号で白山通りを横断し、蓮華寺坂(標識あり)を上っていくと御殿坂上へ。

文 京区白山二丁目と三丁目の境に御殿坂という長い急坂がある。小石川植物園の東脇に沿って、やや湾曲しながら安閑寺に向かって下っていく。植物園の樹林が大きく枝を伸ばし、緑の影を投げていて快い。別名を御殿表門坂・大坂・富士見坂ともいう。昔、植物園一带に白山御殿があり、この坂がその表門(現在の植物園正門辺り)に続いていたので御殿表門坂と呼ばれ、さらに、この坂の雄大な景観から大坂の名も生まれた。また、文化(一八〇四〜一七)の頃までこの坂から富士山が臨めたので富士見坂とも呼称されたのだ。

白山御殿は、五代将軍・徳川綱吉が将軍に就任する以前の、館林宰相(上野館林藩主。二五万石)といわれていた時代の下屋敷だったところ。ここが、現在の白山五丁目にある白山神社の跡地なので、白山御殿と呼ばれたのだ。綱吉が将軍になってからも屋敷は維持されたが、綱吉の没後の享保六年(一七二一)、御殿跡は小石川御薬園になった。そして翌年、八代将軍・徳川吉宗は町医者・小川笙船の提案を採用して、園内に小石川養生所(施薬院)を設けた。これは貧民のための療養施設で、笙船の活躍ぶりは映画「赤ひげ」に描かれている。養生所の井戸(現存)の近くに、南へ下

る鍋割坂と呼ばれる坂があった。別称を病人坂といった。鍋割坂の名前の由来には諸説あるが、養生所を退院する人が病がぶり返さぬように願をかけ、入院中に使った鍋や茶碗を割り捨てたからというの一説。今は雑木に覆われて、坂路を確認することはできないが、わずかに残る石段がその痕跡かと想像するのは飛躍しすぎだろうか。

●坂道研究家 山野 勝

一九四三年、広島県生まれ。早稲田大学政経学部新聞学科卒業。報知新聞社を経て講談社に入社。「ヤングマガジン」編集長、第三編集局長、取締役、常務取締役を務めた。この十数年、東京の坂道を積極的に歩き、エッセイや講演などで坂道ブームの火付け役に。著書に「江戸の坂」(東京・歴史散歩ガイド)(朝日新聞出版)、「江戸と東京の坂」(古地図で歩く江戸と東京の坂)(以上、日本文芸社)がある。

コラム坂

一服茶屋

新宿区内にもう一つの御殿坂がある。筑土八幡町2と5の間で、大久保通りから入ると、右側に筑土八幡神社がある。坂上1帯は御殿山と呼ばれる。坂名の由来は、寛永年間(一六二四〜四四)、三代将軍・家光が鷹狩の際に仮御殿を設けたことに因る。後に、四代将軍になる家綱が、大納言時代に牛込御殿を築いたという記録もある。白山の御殿坂に比べると小振りだが、樹木も少なく、やや殺伐とした雰囲気だ。